NTR[illegible]GE
ネトリベンジ
revenge
04
ROUND
原作
マサイ
STORY MASAI
漫画
奇仙
MANGA KISEN

RawLazy.Com
revenge
04
ROUND
原作
マサイ
STORY MASAI
漫画
奇仙
MANGA KISEN
NTR REVENGE
ネトリベンジ
KLMANGA.SI

もくじ CONTENTS

第23話 イケない呪い

結構
冷や汗かかされた
からな――
問題は？
あるに決まってるじゃ
ありませんの‥‥
あんな杜撰な計画
心配しなくとも
ちゃんとフォローして
差し上げますわ

パートナーですもの……私達
記念病院

ご両親もこちらに向かっておられるそうです
そうですか‥‥彼女に話を聞く事は出来そう？

交番に駆け込んできた時はかなり切羽詰まった雰囲気で…やっと落ち着いたところですので今は…
そう…ですか
彼女が交番に逃げ込んだ事で悠木が犯人だと発覚した…
だが――どうにも違和感を拭えない
これから精密検査とか事情聴取とかかぁ
…めんどくさ
どれぐらいで学校行けるようになるんだろ?
こんな事になっちゃったらパパとかしばらく家から出してくんなそうだし…
ママに泣かれるのもめんどいし
あーあ早く帰りたい――

……桜庭君のところに♡

なる・・・・
なりま・・す
さ・・・・・桜庭君
こいつ口だけだって！
桜庭君の女にする
価値なんてないって！

……黙ってろ
う……
跳べ…水野陽菜

ここは・・・・?
俺の部屋だ
出られさえすれば
こっちのものよ・・・・
大声を出して助けを呼ぶ?
ダメ・・・・
またあの部屋に送られたら
もうお終いだもん
桜庭だって
ずっと見張ってられる
訳じゃないし
逃げ出すチャンスは
あるはず・・・・

ありませんわよ？
そんなもの
ひっ!?
だ・・誰っ――!?
そういえば初対面でしたわね
はじめまして

わたくしはアスモデ――
あ・・・・悪魔？
色欲を司る悪魔ですわ
そう・・悪魔ですわ
ひっ!?
考えてる事に返事しないでよ!!

本物？
本当に悪魔なの・・・・？
うふふ・・・・これは失礼
でも・・・・逃げ出すチャンスなんて本当にありませんの
悪魔にとって契約は絶対
あなたがこの眼鏡のモノになると仰ったなら絶対になっていただきますわ！
眼鏡言うな!!

心を読まれてるなら……
取り繕っても無駄…よね
こ……
こんな奴の女になんて…
ですよねー
この眼鏡に虜に出来るぐらい
すごいセックスが出来れば
いいんですけど……
まあ無理でしょうね
そもそも愛のないセックス
なんて言語道断ですし
だから眼鏡言うなって！
そ…そうよ
好きな人とじゃなきゃ
セックスしたってイける
訳ないじゃん
……気持ち悪い

ごもっとも！
ですが・・・・
わたくしは色欲を司る悪魔
女を発情させる事ぐらい造作もありませんの
!?
!!

ハマ
ハマ
ハァ
あ‥あぁっ
‥ぅうっ‥‥
ビクッ
どうです？
したくて
したくて‥‥
仕方がないでしょう？
ううう‥こんな‥‥

あんっ
あんっ――
あああ……
あ…イきそう……
ああんっ!
あんっ!!
イくっ…ああっ……
くっ……

あ"ッ!!
ビクン
ビクン
ぐっ…あ…!
!?
え…?
あ…あれっ?
あ…あれっ?
な…なんで…
なんでイけないの!?
なんで…こんな!!
言いましたよね?
"好きな男とのセックスじゃなきゃイけない"って…
だから…
ご希望通りそうして差し上げましたの
う…嘘…そんな…
このままじゃおかしくなる
うふふ…
寸止めはお辛いでしょう?
でも大丈夫です
この男を心の底から愛すればちゃんとイけますから

ぜー
ぜー
あ‥悪魔‥‥‥
そうですが　何か？

第24話　恋に堕ちたら

好みじゃねぇっての！
あのブスじゃ
割に合わねぇだろ

別の用意しろって！

なんだよ？
ちっ……！
いや……
別に……

虐められる事もなくなって——
今日も平和だ

キーン
コーン
カーン
コーン
起立
礼
着席

ただいま・・・
ガチャ
ただいま

おかえりなさいませ

ああ‥‥何か
変わった事は？
あると思いまして？
あれから‥‥
2日が経過した
だが水野は未だに
一度もイけていない
桜庭君‥帰ってきたんなら
‥‥は‥早くぅ!!
早く入れてぇ！
入れてってばぁ！

こいつはずっと
絶頂手前で騒がしいが……
この部屋の音は一切
外に洩れていない
多分……
アスモデが
何かしたんだろう
早くぅ！
入れてっ！
うふふ……
今日こそイけるといいですわね
う……うぅ…
この2日間
学校へ行く以外は
ほぼセックスし続けている
信じられない絶倫っぷりは
アスモデとの契約の恩恵らしい
はぁ はぁ……お願い…
早くぅ！
入れてっ…入れてよぉ！

うるせぇ・・・よっ！
あぁあぁあぁあぁ!!
あああんっ！
イ・・・イぎだいいっ！
桜庭君・・好きって言って！
私の事好きって言ってぇ！
好きって言ってくれたら・・・・
好きになれるかも・・・・
お願いいいいいいい!!

はぁ？
嫌いだよバーカ
いやぁ……
そんな事言っちゃ
ヤダぁあああああ！
まったく
どの口が言ってやがる
自分が俺に……
いや 俺達に何をしたか
覚えてないのか？
淫靡な光景は
大好物ですけれど……
こうも進展がないと
飽きてしまいますわぁ
少し手伝って
差し上げましょうか……
あああんっ!!
な 何？ やぁん!!

セックスをすると脳の下部にある下垂体後葉からオキシトシンという物質が分泌されますの
これは恋心を形成する物質なんですのよ
ぜー
ぜー
な・・なんの話っ？あひっ!?あ・・・・
これだけセックスをしてるんですから
恋に堕ちるのは当然だと言ってますの
ああんっ・・あぁ・・当然・・・・？
ぜー
ぜー
イけない理由は一つ

あなたのゴミみたいなプライド
大丈夫：堕とされたからって恥ずかしい事じゃありません……当たり前ですわ
当たり前……っ!?あぁああああっ！
そう：当たり前あなたがおかしい訳じゃありません
あああああっ……くっ…イけそう……イけるかもっ！
ほら――声に出して言ってごらんなさい
好きぃ！好きっ！好きになった…大好き！大好きっ！

全部・・あげるぅ！
愛してるううぅぅっ！
ビクッ
ビクッ
イくゥウウウウウ!!
ビク
ビク

生きてんのか……これ？
うふ…溜まりに溜まった快感が一気に押し寄せましたから……
ビクッ
ビクッ
ビクッ
RawLazy.Com

それでは
桜庭(あなた)へ向ける恋愛感情をマックスの状態で固定しますわね

ゼー
ゼー

第25話 不良少女の純潔

その‥美玖‥さんは
気にならないんすか？
何が？
今陽菜と
ヤッてんのかなって‥‥
もしかして‥‥
嫉妬してるのかしら？

あ・・桜庭君!
――えっ!?
え・・・・?

ひ…陽菜
…なんで…？
陽菜ちゃんももう…
桜庭君のモノになったんですね
っていうか
カノジョだよ？
ふざけんな
…バカ女

ひっどーい！
こーんなに愛してるのにぃ
な・・・なんだこれ？
あの・・・・
さ・・桜庭君？

そ…その……陽菜が
服着てるんだったら
…アタシも――
はぁ？
黙ってろ家畜
な…なんで⁉
ア…アタシの方が先に
桜庭君のモノに
なったのに！
あ……あんなに
尽くしたのに！

痛っ!?
桜庭君は黙ってろって言ったの！
人間の言葉を忘れたのかしら？
……メス豚
ううぅ……
あん……♡

尽くしたねぇ・・・・
よくそんな事が
言えたもんだ
え・・・・?
いや大したもんだよ
従順になったフリして・・
俺の背中に
助けを求める文字を
貼り付けるなんてな
っ!?
!!

正直・・舐めてたよ
〝HELP〟だっけか？
もう嫌なんだ・・・・
出してくれよぉ
おい
放せ!!
お前がそんなに
知恵が回るとは
思ってなかったよ
ち・・ちがっ！
違うんです!!
あれはアタシが桜庭君の
モノになる前で・・・・
じゃあなんで言わなかった？
自分から謝ってたら心証は
変わったかもな

そ それは・・・・
関戸の躾はお前に任せようか
友達なんだろ?
友達・・・・あはは っ!
ひ 陽菜・・あの・・・・
千秋ぃ・・たぶん今 私・・・・世界で一番アンタが嫌い
嫌い過ぎて・・・・殺しちゃうかも

ひっ!?
先に友達やめたのはアンタだかんね
んだよっ！け・・結局お前だって桜庭君に――
媚び売ってんじゃねぇか！
さ・・・桜庭君！ヤっていいから！
ア・・アタシの処女あげるから！
そ・・その代わり・・・・

アタシと結婚して！

あははははっ!
マ…マジで?
ア
アスモデ!?
ドドドドドドドドドッ

だ・・誰!?
あ?・え?・な・・なんだ!?
ひぃ・・ひぃ・・・・・
苦し・・面白すぎるでしょ
・・・・逸材ですわ!
おい・・・・
何笑ってんだよ
だってこの子・・・・
本気であなたと
結婚したがっていますわ
マジのマジ・・大マジで!
は!?

すっごく歪んだ思い込み
……処女を捧げたら
相手と結婚しなくちゃ
幸せになれないって
……何それ!?
何その思い込み?
ほとんど呪いじゃ
ありませんの!
ぎゃーハハハハッ!!
そんな切迫した……
ぶぶぶっ…ぶほっ……
う…うう……

っていうか
カ・ノ・ジ・ヨだよ？

第26話 狂信者の喪失

……乙女だな
……乙女ですね
!!

タ・・タイム!!
ターイム!!
ア・・アスモデ!
ちょっと!
な・・何がどうなってんのさ!!
あれ何!? 何したの!?
何もしてませんわよ?

嘘吐け！なんかもう別人じゃねぇか！
知りませんわよ・・
少し前からストックホルム症候群の兆候はありましたけれど
これは全く別の次元のお話ですわ
どういう・・・・？
先程申し上げた通りですわよ

あのヤンキー女は
「処女を捧げた相手と絶対に結婚する――」
「しなきゃいけないんだ」って…
それはそれは強烈に
思い込んでいるんですの
ただ…
なんで!?
知りませんわよ
〝狂信者〟という分類には
当て嵌まりそうですわね

クルト・シュナイダーの狂信者
精神医学者
クルト・シュナイダーによる
人物像分類の中で
ある特定の観念のために
自分の全てを懸ける人物を
こう呼んでいる
その観念の内容にかかわらず
一般的に些細だと思われる
問題を重要視する特徴があり
そのため躊躇なく
全てを費やすような
行動を示す

いいじゃありませんか
手間が省けたと思えば
やってしまえば わざわざ
恋愛感情を固定する
までもありませんわ
そうなのか・・？
まあ見ててくださいな
結婚してって
言ってますけど
どう思います？
バカじゃん？

あぁ!?
何様のつもりって感じ
……家畜のくせに
んだと
このっ……!!
ヤってないのは
あなただけ
だからあなたは
このままでは家畜として
酷い目に遭う事になる
でもヤったからといって
この眼鏡があなたと結婚して
差し上げる義務はありません
眼鏡言うな!!

でっでも・・・・
そこから先はあなた次第じゃありませんの？好きになってもらえるように努力するのは
う・・・・うぅ
・・・・分かったよ
抱くから・・・・準備してやれ
ぇぇ〜〜〜彼氏に他の女の子抱く準備しろって言われるとか・・・
彼氏じゃない
ぶぅ〜〜〜

私千秋の事
嫌い過ぎてうっかり
膜破っちゃうかも
ひっ・・・・!?
陽菜ちゃん・・・・
桜庭君を
困らせるようなら
容赦しないわよ?
はいはい・・・・
ややめっ・・・・!?

んっ！
んんんっ！
んはっ・・・・

まさか・・・・
あなたまで普通に結婚して普通の人生が歩めるなんて
日和った事考えていませんわよね
そんな訳ないだろ
結構・・・・あなたは復讐するそのために女を支配する
私はそれを楽しむ・・・・忘れないでくださいまし
・・・・ああ

桜庭君
そろそろ……
ああ……
パサ

優しく
して・・・・
さ・・桜庭君・・・・?
ぐひっ!?
あ・・あぁあああああ!
ビクッ

ぎっ…痛いっ！
桜庭君…痛いいいっ！
俺はお前らを赦してなんかいない
お前らが何をしたか…
忘れられる訳ないだろ
あぁああああ
あああああああ！

……好き
桜庭君……
好き……
いいだろう——
思う存分使い潰してやるよ
水野も……
お前も

第27話 復讐の舞台ウラ

……転移先を増やせるって事か？
ええ
牝を2匹堕とした
ご褒美という事に
しておきましょうか
……2匹？

竹内さんは
そもそも復讐の対象じゃないし
完全に俺のモノにした訳でも
ないからノーカンって事か
・・・

覗き見……
望めば メダルの表に
映るものを遠くから
見る事が出来ますの
監視カメラみたいに
使えるって事か!?

…脱衣所や更衣室に設置しようと思ったでしょう？
思ってねぇ!!
冗談はさておき…もう彼女達を監禁しておく意味はありませんわよね
そろそろ解放して差し上げては？
ああ…そうだな
や…やだ！捨てちゃやだ！絶対離れないからっ！
……

そうじゃなくて・・・桜庭君は
外に出してやるから役に
立てって言ってるの
・・・
そうなの・・・？
・・・・脳筋
んだとっ！
やめろ
お前らを家へ帰す・・・・
今からその手順を説明するが
誤解するなよ
お前らを赦した
訳じゃないからな

翌日――13:20

あーあ……
イヤだなぁ……

今にして思えば
なんで昌隆みたいな
中身スカスカな男と
付き合ってたんだろ……

バカみたいじゃん

必要な事なのは
分かるんだけどさー….
今さら昌隆に抱かれるとか
鳥肌もんだわ
マジ・ゲロ吐きそう
でも….
まあ 仕方ないよね….
桜庭君のためだもん

同時刻——

15:00

刑事って‥‥
大変な仕事だよな
ボフン
誰のせいだと
思ってますの？
2人ともシャワーを
浴びて準備しろ！
うるさい！

17:02

この辺ならいいかな……

そろそろだ・・・・
転移したら竹内さんは
メダルを回収してくれ

17:36

18:00

助けて・・・・
HOTEL
18:12

さて・・・・
俺は念には念を入れて
アリバイづくりと
しゃれこみますか

警察署
いったい――何がどうなってんだ・・こんな事
ある訳・・・・
ごきげんよう
!!
惨めな
寝取られ男さん♪

第28話 第一段階 完了

どうせ夢に決まってる・・・・こんな事ある訳ないんだ
・・・これが現実だと認められないという事なのでしょうね
では・・その夢から覚めるまで少しだけ私の愚痴にお付き合いくださいませ
愚痴？
ええ・・愚痴ですわ

私・・・・
これでも魔界では
かなり名の知れた
大悪魔なのですけれど
諸・事・情・にて力の大半を
失っておりまして
それを取り戻すために
パートナーを
選んだんですの
ところが・・・・
その男というのが
まぁ奥手で

随分手こずりまして……
あーこれは失敗したかな
とも思ったのですけれど
なんとか魔力の供給源も
2つ手に入れられましたし
その子が出してきた
お遊戯みたいな計画も
一応フォロー出来ないレベル
ではございません
やっぱ夢か……
話 全然分かんねぇし

ふむ…分かりませんか……
出来の悪い子ほど可愛いという話なのですけれど
分かんねぇって言ってんだろ！
結論を申し上げれば……あなたに全ての罪を被っていただきたいという事ですの
……え？

ビクッ
ビクッ
あなたは思春期を拗らせた
変質者・性欲を我慢できずに
同級生3人を監禁して
ヤりまくったという事で
お願いいたしますね♪

記念病院
ごめんなさい
ごめんなさい
ごめんなさい

メモ
あいたい
あいたい
あいたい
返事して
不安になるから
がまま言ってごめんなさい
いにならないで
ごめんなさい
ごめんなさい
ごめんなさい
地雷女すぎる・・
マジか・・あいつ
まだだ・・・まだ
何も終わっちゃいない

終わりに出来る訳がないだろ！

だが……
徳重に復讐の牙が
届かなかったのは事実だ
何が悪かった？
俺は何を間違えた？

最初のターゲットに水野を
選んだ事は
間違いだとは思わない
あいつは最悪だ……
あいつを潰さないと
他の誰を潰そうと
イジメは止まらない
誤算だったのは関戸を獲っても
徳重になんのダメージも
与えられなかった事だ
事あるごとに徳重が
関戸を口説いてたのは
俺も見ている

・・・要は
本気じゃなかった
って事なんだろう
ってか・・・
いっその事 徳重自身を
攫っちゃダメなのか?

ダメに決まっているでしょう!!
……突然出てくんな
握ったとして……あなたBL展開出来るんですの?
出来るかっ!
単純に徳重から寝取る相手が見当たらないってだけの話だろ!
彼女がいるなんて話も聞いた事ないんだから……
ふふん!

褒めてくださってもよろしくてよ？
私・・・ちゃんと次のターゲットは見つけておりますの
ターゲット・・・・？

明日花ちゃん
時間でしょ？
あがっていいよ
はーい！
お疲れ様でしたー

今日めっちゃくちゃ
お客さん多かったなぁ〜〜
疲っかれたー
ふんふーんふーん♪
徳　重
その方には
妹さんがいらっしゃって
非常に大事にされて
おられるとか・・・

お名前は徳重明日花さんと仰るそうです♫

第29話 事件解決後の彼女達

終わった？
お前・・・それ本気で
言ってんのか!?
本気ですよ
肝心なところは
何も覚えてないんだぞ
悠木は！
カッ
ポッ
でも・・・
犯行を認めてますし
鑑識もあの部屋での
監禁は有り得ない
と言ってるんだ！

先輩・・・現行犯ですよ?
その上――
被害者は悠木が
犯人だと主張してて
悠木も全面的に
犯行を認めてるんですから
これで終わりじゃなきゃ
一体終わりってなんですか?
って話です
・・・・っ
・・・まあ
18歳になった直後に
逮捕という状況は
出来過ぎな気はしますけどね

ああ・・・・
18歳からは起訴されれば
少年法の対象じゃなくなる
実名報道も解禁だ・・・・
刑罰の重さが全然違う
一言で言えば
〝これで人生終わり〟って
感じですからね
だからだ！
本当に終わらせて
いいのか？
冤罪・・・・の可能性が
あるんだ
BLAC
PREMIUM
ブラック
コーヒー
じゃあ
真犯人は桜庭君ですか？
俺は・・そう――

それこそ可能性ないいんじゃないっスかねぇ・・・・
確か今日あたりから被害者の子達が登校するみたいですけど
同じ教室に真犯人がいるとかそんなの無理じゃないスか？
あれから11日・・・・今日から彼女達が登校している

悠木が犯人だという事はもう知れ渡っている
それだけにクラスメイトの大半は彼女達を遠巻きに見ているだけ

まあ――なんて話しかけたらいいのか分かんないよな……普通は

……一部の例外はありそうだけど

悪いけど…… 昌隆の事についてはノーコメント
捜査に関わる事だから言っちゃダメだってお巡りさんにも言われてるから
えー気になるじゃん！
あはは流石瑞穂っち…… 致命的に空気読めねーのな
おめぇが言うな！

それと満！アンタ
もう美玖に手ぇ出しちゃ
ダメだからね！
えー！
なんでさ？
ったり前だろうが
ボケ！
ポリにアイツが
要らねぇことゲロするん
じゃねぇかって…
冷や汗もんだっつーの
まだ
事情聴取だって終わった
訳じゃないんだから
ちっ…分かったよ…
まあ…別にヤる相手に
困ってる訳じゃねぇし

キーン
コーン
カーン
コーン
なぁ‥‥
桜庭君のメダルは？
‥‥美玖からちゃんと
受け取った
美玖は来ねーのかよ？
うるっさいなー
もう話しかけんな
ってば！
桜庭君の命令じゃなきゃ
アンタの顔なんか
見たくないんだから
あ？
やんのか‥おい！

やめやめ……私…
桜庭君に嫌われたく
ないもん
ア…アタシだって!

でも仲良くするとか無理だから！

そりゃ こっちのセリフだっての！

ちっ‥甘やかされてやがる
うっさい‥‥死ね
チン
ここ
ああ
なんもねーな
これから買い揃えてくとこだし

桜庭君のために借りた部屋なんだから家具とかは桜庭君の好み聞いてからだって
そりゃそうか・・・・
んな事いいから・・・・とっとと準備しなって
・・・・お・・・おう

えーと・・・準備できたよ♥
――っと
ハートマークとかキャラじゃねー・・キモッ
うるせぇよクソビッチ!!
あ・・・・
え・・・・?

……桜庭君♥

アッ♡

あぁぁあああっ!!

第30話 快楽に堕ちるオンナ達

桜庭君・・桜庭くぅん・・
ちゅーしたい・・・・
んっ・・んんっ！
好きっ・・・・
大好きぃ・・・・
ムニュ
ムニュ

ビクン
ビクン
あぁあああぁあっ!!
あーぁ――
また自分だけイってやんの
‥‥ザコじゃん
はぁ‥はぁ‥うぅるへぇ
‥‥しゅきなんらもん‥
しょーがねぇらろ

桜庭君! そんなザコ放っといて 私としようよぉ……
あぁん あんっ 桜庭くぅん!
千秋より私の方が 気持ちいいでしょ? 気持ちいいよね?

うるさいな・・・・
大人しくやられてろよ！
パン
ぜー
あんっ！
さ桜庭君・・出して！
私で気持ちよくなって！
ううう っ・・・・

くっ！

イくっ！
ああああああああっ!!

責任って言われても・・・
速水さんの名前出したのは
軽い脅しのつもりだっただけで・・
そのせいで徳重が
バカやらかしたんだろうが！
ごめんなさい！
痛い・・痛いってばぁ！
それで水野・・・・
お前 徳重の妹と面識は？
ある・・・・
けど――
痛いっ！
痛いから
もう許して！

あ…明日花ちゃんとは
何回か話した事あるぐらい
ホッ
確か…私の
フォトグラもフォローして
くれてたと思う
見せてみろ
えーとね…あった!
確かコレがそう
あすぴー
ぺん田さん大好きペンダミンです。バイト代でペン田さん
グッズを集めている
最中!推し活欲発散中です!
602 フォロー 883 フォロワー

なんだ・・・・？
この不細工なペンギン
知らない？
有名だよ…"ペン田さん"
ペンギンの
着ぐるみを着た
イケメンって設定の
Vチューバー
イケボで結構
人気あるんだよ
イケメンって・・・・
顔見えてないだろ！
時々着ぐるみ
脱ぐんだってば
・・・配信中とか
なんだ
その訳分からん世界観・・・・
あはは！好きな人は
そこがいいんだって
明日花ちゃんもほら・・・・
"ペンダミン"って書いてるし

ペンダミン?
ファンネーム・・・要はペン田さんのファンって事
ふーん・・・

あ・・・でもVチューバーか・・・そういう方向もありかも?
なんの方向だよ

だってほら・・・フォトグラの投稿は再開してるけどさ・・・色々あった訳じゃん?
お陰でちょっとフォロワー減ってるからVチューバーに転向するのも一つの手かなって

もしかして――
それ俺のせいだって言ってる？
違う 違う！ いーっぱい
稼いだらその分
桜庭君に貢げるじゃん
そしたら桜庭君も
もーっと私の事 好きに
なってくれるかもって
……なる訳ないだろ
ぶ〜〜〜
で……
今度は明日花ちゃん
攫っちゃうの？
必要ならそうする
……でもまだ決めてない

あの・・・・桜庭君？
なんだ？
その・・・・
桜庭君がヤれっていうなら
アタシが徳重ボコすけど？
あ？
ボコボコにしたぐらいでキャラに
出来ると思ってんのか？
そ
そういうつもり
じゃなくて・・・・
その・・・・
ご・・ごめんなさい

そうだ……
いくらボコっても
あのクソ野郎がいるうちは
梓は安心して
部屋から出てこられない

送ったメッセージに
既読が付く
ようにはなったんだ
復讐を終わらせて
徳重がいなくなれば
梓もきっと元通りに――

はぁ…はぁ……
んっ……！

梓ごめん。
俺に出来ることがあれば
言ってほしい
気が向いたら
返事をしてほしい
大丈夫か？ 心配してる
ちゃんと食べてるか？
できれば会ってちゃんと
謝りたいんだ
ははっ！
憐れだねぇ桜庭・・
梓ちゃん・・どう？
今の梓ちゃんの姿
撮って送ってやろうか？
桜庭に

や…やめて……ください
そ…宗ちゃんは
関係ないから……
はっ！揃いも揃って同じ事
言うんだな
桜庭も梓ちゃんも……
ホント仲良くて結構なこって…
梓は関係ないッ!!
ひっ!?
マジ…ムカつくよなぁ

いつまで温い動きしてんだよボケ！
あっ…やっ…やめっ……ああああっ……いやっ！
イヤじゃねーんだよ梓ちゃん
まだ分かってないみたいだけど…俺が飽きたらダチにマワすからね？
あああん！ダ…ダチ？マママワすって…──あっあああっ！
連中俺ほど優しくないからねー夜も昼もなく交代でヤりっぱなし…処分は連中に任せてるからさ
使い物にならなくなった後どうなんのかは俺も知らねーし

ひっ!? う・・嘘
や・・やめ! ゆ・・許して――
じゃあ・・・・
俺に飽きられないように
頑張るしかないでしょ?
ねぇ・・・・
梓ちゃん?
う・・・・うぅ・・・

To be continued in the NEXT REVENGE.

単行本特別収録

NTREVENGE エピソード〝梓〟

マサイ

ヘルプレスバッドループ

私は、自分の心が折れる音を聞いた。
理不尽に犯され、恥ずかしい写真を撮られて、それをばら撒くぞと脅される日々。
引きこもった暗い部屋の中で、何度も何度もスマホが明滅しながら震えていた。
そうして私は目を背け、耳を塞ぎながら、刻一刻と追い詰められていったのだ。
この地獄から逃れるためには、もうあの男を殺すしかない。それしかない、と。
殺した後のことなんて欠片も頭の中には無かった。損得なんて考えもしなかった。犯られたのだから殺ってもいいはずと、自分の頭の中で辻褄だけは合っていた。
そして私は、愚かにも男の呼び出しに応じて、深夜に部屋を抜け出したのだ。
お父さんの登山用ナイフをパーカのお腹の部分に忍ばせて。
「いぇーい！ 梓ちゃん、待ってたよぉん。今日はいっぱい楽しもうぜ！」
指定された場所に私が姿を見せると、男はコンビニのビニール袋を片手に、馴れ馴れしく私の肩を抱いた。

触れられている部分から腐り落ちてしまいそうなほどの壮絶な嫌悪感。どうにかそれを堪えて従順なフリをし、私は男に促されるままに歓楽街のラブホテルに足を踏み入れる。

（もうすぐ──もうすぐ、この地獄は終わる）

私は、ラブホテルのエレベーターの中で、お腹に隠したナイフの感触を確かめた。

そして部屋に入るなり、ナイフを引き抜いて男へと襲い掛かる。

「なっ!? お、おいっ!」

男の驚愕の表情。それまでヘラヘラと笑っていた彼の目に、怯えの色が過った。

私は、渾身の力を込めてナイフを振り下ろす。照明を反射して光る刃。ヒュンと風斬り音。ところがそれは、刃先が男の頬をかすめただけで虚しく空を斬った。

しくじることなど想像もしていなかったのだ。

そして私は、パニックに陥ったのである。

「うぁぁ、うぁああああっ!」

叫びながら闇雲にナイフを振り回すも呆気なく得物を取り上げられ、床の上に組み敷かれる。馬乗りになった男は目に怒りを宿らせて私を見下ろしていた。

「優しくしてやりゃ、調子に乗りやがって!」

次の瞬間、私の目に映ったのは拳を振り上げる男の姿。

そして、顔の真ん中に凄まじい衝撃が襲い掛かってくる。目の前が瞬時に昏くなって星が散った。痛いのかどうかもすぐにはわからなかった。

二度、三度と男の拳が私の顔を殴りつける。口の中に血の味が広がって、ボトボトと垂れ落ちた鼻血がパーカの胸元を汚し、気が

付けば、私は涙を流して男に許しを乞うていた。

「ひゅう……ひゅうう、あぁ、も、もうや、やめ……ゆ、ゆるしてぇ……」

「けっ！　二度と逆らうんじゃねぇぞ、このメス豚が！」

男は泣きじゃくる私の服を剥ぎ取って裸にし、不満げな顔をしてこう口にした。

「ちっ、可愛いだけが取り柄のくせに、顔面腫れあがっちゃいいとこなしじゃねぇか、ったくよぉ」

そして、男はコンビニのビニール袋から中身を床に投げ捨て、その袋を無理やり私の頭に被せてこう言った。

「ブサイクなツラ見せんな、ブタ！　穴だけ締めてろ！」

男は、その状態のまま私を無茶苦茶に犯したのだ。

私は自らの鼻血の臭気が籠もるコンビニ袋に視界を遮られた状態で、為すすべもなく朝方近くまで犯され続けた。惨めだった。救いを求めて、心の中で何度も何度も幼馴染みの名を呼んだ。だが救いなどあるわけがない。逃れるすべもない。暴力による恐怖がなけなしの意気地を完全にへし折り、私はその時、自分の心が折れる音を聞いたのだ。

そこから、今日で六度目の呼び出し。私に選択権はない。この男に支配されている。私にはもう、逆らう気力も残されていなかった。

呼び出されたのはラブホテルではなく、商店街の外れにある雑居ビルの一室。

男は、ソレのヤリ部屋を借りたと、そう言っていた。

私は悪魔

七つの大

色欲を司る

悪魔ですわ

私は部屋に足を踏み入れると、震える手でスカートを捲り上げショーツを脱ぐ。そうしろと強要されているのだ。
そして、男はいやらしく口元を歪めながら下腹部をたっぷりと視姦した後、私の頭を掴んで床へと押さえつけた。
「ほら、とっとと始めなって」
「う……」
私は教え込まれた通り、男の足下に跪いてズボンのファスナーを下ろし、ペニスを掴み出す。蒸れたような汗くさい匂いがした。鼻先に突きつけられたグロテスクな物体を正視することができず、私は目を瞑り顔を背ける。
「おいおい、教えたじゃん。しっかり見なって見なきゃ咥えられないだろ?」
男が私の顎に手を置いて正面を向かせ、亀頭で頬をつついた。
熱くて柔らかいものが頬に当たる感触に、凄まじい嫌悪感を覚える。先端の剥けたところはピンクだが、胴のところは赤黒い色。何度見ても人体とは思えない造形で、あまりの気持ち悪さに喉の奥から酸っぱいものがこみ上げてきた。
「ほらほら、梓ちゃんの処女を奪ったチ○ポだよぉん。早く好きになれるといいねぇ。そしたらしゃぶるのも、扱くのも楽しくなるからさ」
いやらしい笑いを浮かべながら、男は強引に私の手を取ってそれを握らせる。生温かい気持ちの悪い感触。竿の部分に指を這わせるとそれがビクンと跳ねた。
「ほら、愛情を込めて優しく包む感じで」
愛情？ そんなもの有るわけがない。だが、逆らえない。逆らうことが怖いのだ。

先端の皮膚は、人肌とは思えないぐらいつるつるしていて益々気持ち悪い。中ほどに指を絡めるようにして握るものの、やはりまだ力加減がわからなかった。

不器用な私に焦れたのだろう。男は私の顎を乱暴に掴んだ。

「ああ、もう、手はいいや。口開けろって！」

無理やり口を開けさせようと、力の籠もった男の指が頬に食い込んでくる。

「い、痛いっ、痛いっ——！」

「なに抵抗してんだ、バーカ。逆らえば逆らうほど酷い目に遭うって、まだわかんねぇの？」

抵抗虚しく私が口を開くと、待ちかねたかのように口内に異物が侵入してくる。

「ふぐっ⁉」

鼻に抜ける生臭い匂い、舌に触れる気色の悪い感触、言葉にしがたい最悪な味、ドブに顔を近づけたかのような嫌悪感が襲い掛かってきた。

「んんんっ⁉　んごっ、んんんっ……ぼおっ……んんんっ！」

苦しい。息が出来ない。私は必死に身を反らし、舌先で亀頭を押しやろうとする。だが男はまるでボールを掴むかのように、両手で私の頭を押さえ込んでいて逃れようもなかった。

思わず男の手を掴んで爪を立てると、頭上から怒声が降ってくる。

「痛って！　おいこらっ！　歯全部へし折るぞ！　このボケ！」

「んんんっ！」

怒鳴りつけられた途端、恐怖で身が強張った。

慌てて腕から手を離すと、男が後頭部にか

私は悪魔

七つ

色欲を司る

けた手に更に力を込める。あまりの息苦しさに喉を鳴らし、指先が必死に宙を掻いた。

口内で肥大するペニス。私は口腔でその変化を感じ、怒鳴られたくない一心で噛んでしまわないようにと更に大きく口を開ける。

その瞬間、男は私の顔面へと腰を叩きつけ

「ぐぽっ！　ぼぼぉぁ！」

男の陰毛に埋まる鼻先。自分の物とは思えないような濁った悲鳴が溢れ出る。突き入れられた肉棒が一気に口腔を通り抜け、先端が私の喉奥を突き上げた。

「へへへっ、やりゃあできるじゃん、梓ちゃんよー」

「げぇえ、ぼげぇえ」

こみ上げてくる吐き気。嘔吐反応で内臓を搾り上げられるような苦しみが襲い掛かってくる。目尻に浮かんだ涙が、頬に筋を描いて零れ落ちた。

「んぼっ、ぼえっ、ぼえええっ……」

苦しむ私を気に掛ける様子もなく、男が腰を前後させ始め、先端が喉の奥に突きこんでくる。口の端から涎が零れ落ち、パーカの胸元を汚した。息ができない。私はもう無我夢中で、男の腿を何度も何度も叩いていた。

（あ、ダメ、死ぬ……）

呼吸困難に陥って、目の前がフワッと白む。それとほぼ同時に男がようやく私の口からペニスを引き抜いた。

「おっ、おえええっ？　うええええっ……はぁはぁげえええっ……！」

途端に押し寄せてくる凄まじい嘔吐感。床の上に突っ伏して私は激しくえづいた。胃の腑から酸っぱいものがこみ上げてきて、泡立っ

悪魔ですわ

た唾液が糸を引いて滴り落ちる。

「うつわ、汚ったねえ。恥ずかしくねえの？」

揶揄うように笑う男に、言いようのない腹立たしさを覚えても、やはり逆らえない。悔しさが雫となって目の端にじわりと滲んだ。

「そんなんじゃいつまで経っても終わんないよぉ、梓ちゃん」

そう言って男は、結んだ私の髪を掴んで顔を上げさせると、再び眼前にペニスを突き出してくる。その先端の割れ目の部分からは透明な液が滲み出ていて、胴の部分は私の唾液にまみれ、てらてらと濡れ光っていた。

「も、もう許して……お願い、お願いだから……」

「あれ？　あれぇ？　そうか、梓ちゃんは、無理やり喉の奥を犯される方が好きかぁ」

わざとらしい物言いが腹立たしい。だが、もう一度喉の奥に突きこまれるのはイヤだ。

私は突き付けられたペニス、そのいやらしい汁が滲んだ先端の部分に、恐る恐る舌を伸ばす。

「うーん、じゃあさ、ハーモニカ吹くみたいにやってみてよ」

私は言われるがままに男根を横咥えにして、じゅるじゅるとしゃぶり始めた。

「んっ、んふっ、じゅるっ、じゅるっ……」

その瞬間、頭上でカシャッとシャッター音が鳴り響いて、私は咥えていたペニスを吐き出し慌てて手で顔を隠す。

「いやぁっ！　撮らないで！」

「ひゃはは！　見てみろよ。すんげーエロい顔撮れたぜ」

男が、スマホの画面を突き付けてきた。恐る恐る目を向けると、そこに写っていたのは、

私は悪魔
七つ
頬を上気させ、瞳を潤ませながらペニスにしゃぶり付いている私の姿。
まるで、望んでそうしているかのような一枚。
撮られた写真を晒されまいと言う通りにすれば、更に見られたくない写真が増える悪循環。アリジゴクに落ちて、必死にもがいているかのような錯覚を覚えた。救いはない。何処にもない。
色欲を司る
悪魔ですわ

NEXT REVENGE
束の間の「日常」は、
はじめまして！徳重です！よろしくです!!
は・はい……よ・よろしくお願いします
2025年1月発売予定

序章。
プロローグ
さらなる復讐への
なんていう訳ないだろが～バーカー
ああ～んだっ…てめぇ！
へ～いいのかなぁ？校医長に言いつけちゃうよ？
私に手を出すなって言われてたよね？
ちっ…
監獄から解放され元の生活に戻っていった陽菜、千秋と美玖。一方、宗一は徳重への復讐を果たすため、妹の明日花に近づいていくのだが…。淫靡で残酷な復讐劇、新たな展開へ——。
NTREVENGE
ネトリベンジ
[原作]マサイ [漫画]奇仙
VOL.5

禁断・背徳・大興奮！エロス全開コミック！

【シノニム】

宮崎摩耶

手の平サイズ美少女による
大人のためのＳＦラブコメ！

【ギャルにぱちゃんはせまられたい】

歌鳴リナ

強気なギャルが
クソザコメガネに襲われる妄想で
ひとりえっち♡

水野陽菜、関戸千秋、
竹内美玖に対する
桜庭宗一の"支配"は
より強固なものになっていく。
次第に、身も心も桜庭に捧げるように
なっていく彼女達。
それぞれの思惑が絡み合いつつも、
仄暗い"監獄"は
情欲が溢れ、乱れる場となる。
同時に、女子生徒連続誘拐事件の
容疑を悠木昌隆に押し付け、
完了した復讐(リベンジ)の第一段階。
そんな中、アスモデが告げるのは
"第二段階"を開始する上で最重要となる、
ある女子生徒の名前だった——。
淫靡な復讐劇、侵欲の第4巻!!

revenge
04
ROUND
NTRREVENGE
ネトリベンジ

NTREVENGE

NTREVENGE
ネトリベンジ

NTREVENGE(4)

2024年9月1日発行(01)

原作　マサイ
著　奇仙

発行者　森田浩章

発行所　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21